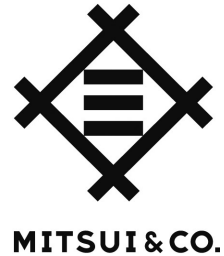


Industrial Pesquera Santa Priscila (IPSP) への事業投資



2023年8月8日
三井物産株式会社（証券コード：8031）

本日はお忙しい中お集まり頂き誠に有難うございます。
三井物産食料本部の遠藤と申します。
6月に実施したNutrinovaの説明会に続き、お時間頂き有難うございます。

案件概要



概要

Industrial Pesquera Santa Priscila (IPSP) への事業投資

取得対価

USD 360mil (約500億円)

クロー징時期

2024年3月期中

Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

2

当社は世界最大のエビ養殖事業会社であるエクアドルのIPSP社への事業投資を決定しましたので、
案件のご説明をさせていただきます。

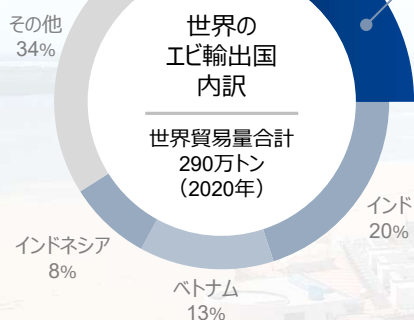
エビ輸出量世界1位「エクアドル」



- 世界貿易量の25%を占める
トップ輸出国



25%



出典: UN Comtrade

- 年間通し26度以上の安定した海水温
- 大規模な粗放養殖が可能
- バナメイエビの原産地



まず初めにIPSP社が事業を展開するエクアドルについてご説明します。

エクアドルは、面積26万平方キロメートル、人口1,800万人を有し、太平洋に面してアンデス山脈からアマゾン上流まで広がる南米の国です。

一人当たりGDPは6,000ドル前後、主な輸出品はエビと石油とバナナです。

中でもエビは世界貿易量の25%を占め、世界1位のエビ輸出国となっております。

エビの養殖に適した条件のひとつとして水温が重要ですが、エクアドル沿岸では年間を通じて26度以上の安定した海水温となっています。また、広い土地で低密度な粗放養殖が可能で、さらには現在貿易の多くを占めるバナメイエビの原産地がエクアドルを含む東太平洋沿岸ということもあり、エビ養殖に最適な環境となっています。

エビの種類



バナメイエビ



車エビ



甘エビ



桜エビ



ブラックタイガー



イセエビ

エビの種類についてです。バナメイエビは世界で圧倒的に多く流通しているエビです。
 ブラックタイガーは池の底に張り付くように生息していますが、バナメイは水中を泳いでおり、
 養殖するときに池を効率的に使えます。

IPSPについて



社名

**Industrial Pesquera
Santa Priscila S.A.**

所在地

エクアドル / グアヤキル

設立

1976年

代表者

Santiago Salem
創業者 / Executive Chairman

従業員数

約16,000名

実績 (2022年度)

売上高: USD 1,400mil
(約1,960億円)

主要製品

冷凍エビ、エビ加工品

主要マーケット

**中国、米国、欧州、
エクアドル国内**

Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

5

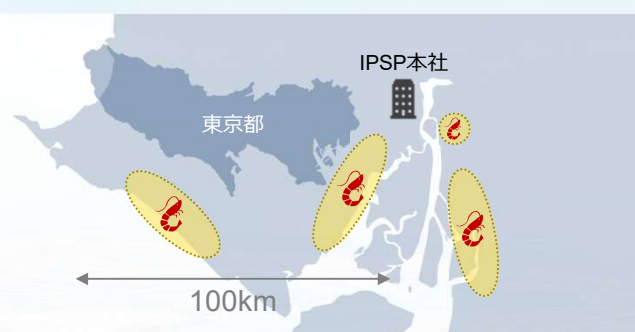
IPSP社の基本情報です。

エクアドルの最大都市であるグアヤキルに本社ならびに養殖場他生産・加工設備を有しており、従業員は約1万6千人です。

2022年度の定量面での実績としては、売上が14億ドル、日本円に換算すると約1,960億円です。

世界最大のエビ養殖事業者

18,000haの養殖池を保有
自社養殖により100%トレーサビリティを確保した
安定的なオペレーション



Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

6

IPSPは、世界最大のエビ養殖事業者です。

エクアドル最大都市であるグアヤキル近郊の18,000haの土地に数千の養殖池を保有し、

独自の養殖技術と品質改善で高い生産効率を実現しています。

またほとんどが自社養殖であることから、トレーサビリティを100%確保した形で安定生産が可能なオペレーションを確立しているという特徴があります。

写真がエビの養殖池で、1つの池の大きさは200mx300m程度、大きい池ではその3-4倍以上になります。

この広々した環境で、自然に近い低密度での養殖事業を行っています。病気になりにくい環境です。

エビ養殖事業のステージ



Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

7

こちらはエビ養殖事業の流れです。

エビの養殖は、病気に強い、優れた親エビを屋内施設で育成・選別し、親エビから卵を採取、

卵を孵化させ稚エビを生産するPhaseから始まります。そしてこの稚エビを写真のような池で90日程度養殖し収穫します。

収穫後、エビは加工工場に持ち込まれ、サイズ等を基準に選別し、そして加工・パッキングを行い、出荷します。

IPSPはこれらの工程をすべて自社で内製化しており、一気通貫で対応することにより、品質とコスト競争力を高めています。

IPSPについて

冷凍エビやエビ加工品を、
中国・米国・欧州・エクアドル国内など
グローバルに販売



IPSP社 主力商品



有頭エビ



無頭エビ



むきエビ



カクテルシュリンプ



エビフライ

低

加工度

高

Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

8

IPSP社製品についてご説明します。

同社主要製品は冷凍エビやエビ加工品で、中国、米国や欧州などへ輸出しています。

頭付き殻付きのまま冷凍したヘッドオン・シェルオンと呼ばれる商品が、中国市場向けの主力商品となっています。

一方、米国市場で需要が増している、ヘッドレス・シェルオンと呼ばれるいわゆる無頭エビやむきエビなど、少し加工度を上げた製品にも注力しています。

各市場のニーズを捉え、それぞれの市場に適した製品の生産・加工販売を行うことで事業機会を逃さず堅固な収益基盤を築くことが出来ています。

IPSP社(単体)の売上高推移



Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

9

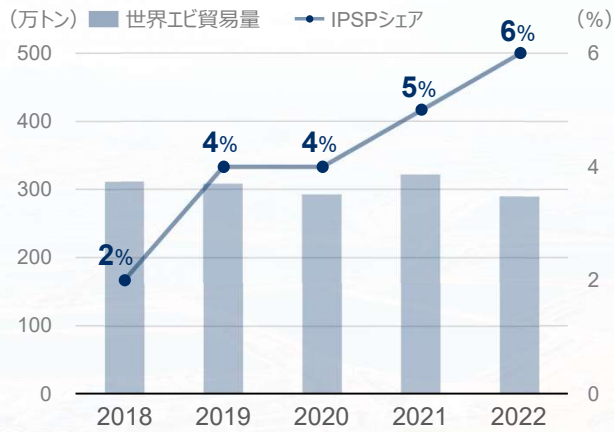
IPSP社の業績です。

過去3年間の売上高は堅調に推移してきており、2025年には20億ドル、日本円にして約2,800億円を超えるレベルを見込んでいます。年平均成長率は28%という伸びを示していますが、自社養殖池の拡張と市場ニーズを捉えた加工工場のキャパシティの増強ほかによるものです。

なお、利益率の目標値としては、2022年の売上対比の純利益率は10%程度ですが、2025年には同利益率15%をターゲットとして目指していきます。これは自動給餌機とAI活用による飼料効率の改善によるところが大きいです。

IPSPについて

世界エビ貿易量に占めるIPSPの割合



出典:当社調べ

世界主要産地事業者の輸出量

	2018	2019	2020	2021	2022
IPSP	7.7	10.9	11.2	14.7	17.7
第2位	6.2	7.8	8.8	9.7	9.5
第3位	3.7	5.2	6.4	7.1	9.3

出典:当社調べ

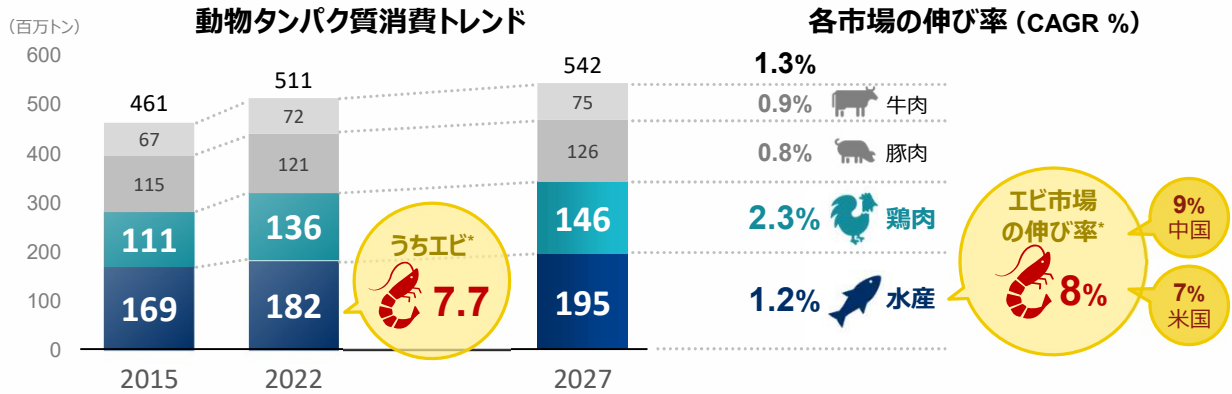
こちらのグラフは世界のエビ貿易量の推移と、それに占めるIPSPのシェアを示しています。

300万トン前後で推移する世界のエビ貿易量に対し、IPSPは2018年から2022年にかけてシェアを2%から6%へと伸ばしてきています。

当社戦略における動物タンパク質事業群の位置づけ

世界の動物タンパク質需要

動物タンパク質の需要は世界的に増加し続けており、特に成長率の大きい種別は**鶏肉とエビ**



出典: OECD-FAO; Agricultural Outlook 2017-2018

* 当社調べ

Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

11

当社の動物タンパク質事業群についてご説明します。

動物タンパク質の需要は、グローバルで増加し続けており、2022年には5.1億トン、2027年には5.4億トンへと拡大する見通しです。

年平均成長率を種別で見ると、鶏肉が2.3%で肉カテゴリーでは最大です。

水産は1.2%と高くは見えませんが、これは水産品全体の平均値です。

エビは水産品2億トンのうちわずか4%の770万トンを占めるにすぎません。

しかし、エビだけで見ると約8%と、高い成長率が見込まれています。

特に、エビ消費世界一の中国は9%、第2位のアメリカは7%で伸びると予想されています。

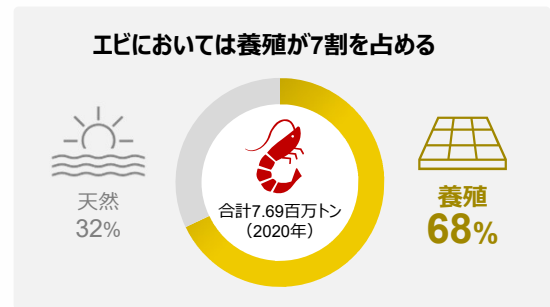
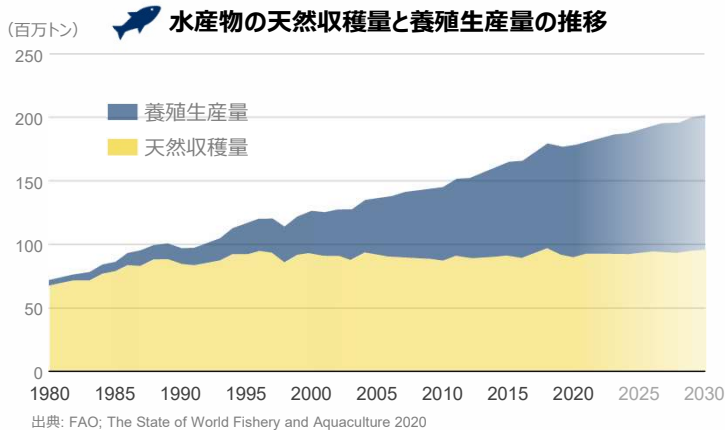
鶏・エビは、他の動物タンパク質源と比較して育成期間が短く景気変動に強いこと、飼料効率が良いことに加え、食文化・宗教背景的にもこれからの世界の地域別人口動態を勘案した場合に有望であり、

また低脂肪・低カロリーで健康志向に叶えるという点からも、注力領域として位置付けています。

当社戦略における動物タンパク質事業群の位置づけ

養殖事業の可能性

水産タンパク質源としての天然資源は頭打ちも養殖による生産拡大は継続



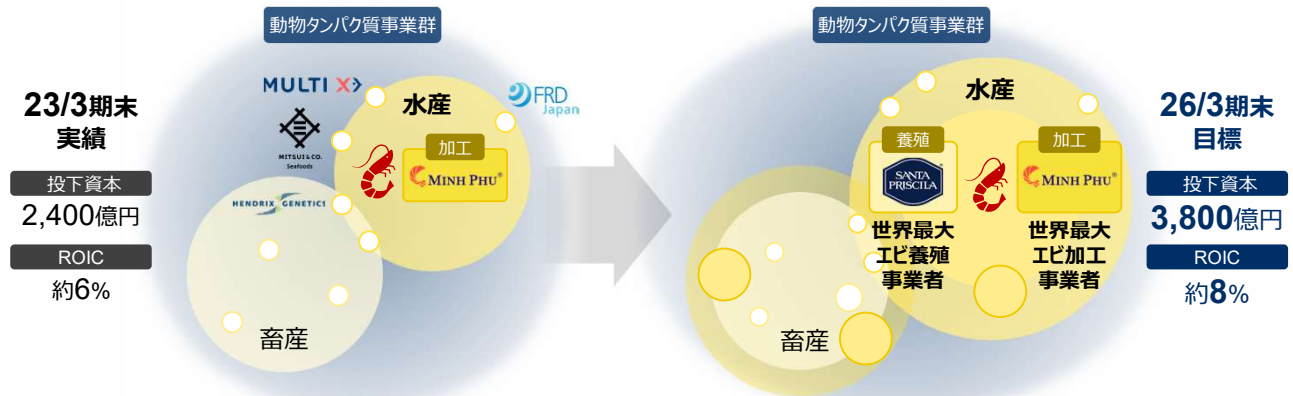
出典: 当社調べ

水産タンパク質源としては天然と養殖の2つがありますが、水産タンパク質源としての伸びが期待できるのは養殖による生産拡大です。

エビにおいては足下既に養殖による生産が7割を占めており、今後もエビ養殖事業の成長性は大きいと見込んでいます。

動物タンパク質事業群の形成

成長分野(エビ・鶏)のバリューチェーンへの投資と事業間のシナジー追求



Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

13

最後に当社の動物タンパク質事業群についてお話いたします。

左の23年3月期末時点の動物タンパク質事業群は、投下資本2,400億円、ROIC約6%の事業群となってい

ます。これを右の現中経最終年度の26年3月期末までに、投下資本3,800億円、ROIC約8%の高収益事業群へと成長させていきます。

当社では、エビのトレーディングや事業に取り組んでまいりました。2019年には寿司エビやエビフライなど、より加工度の高い商品に強みを持つ世界最大のエビ加工事業者、Minh Phu本体に出資参画し、エビ事業経営の経験を有しています。

今般出資するエビ養殖世界最大のIPSP社と、Minh Phu社とを併せ持ち、エビを動物タンパク質事業群のコアのひとつと位置づけ、更にバリューチェーンを拡大していきます。左側にありますHendrix Genetics社には一昨年出資をしておりますが、同社は家畜や魚の品種開発、つまり遺伝子の会社であり、エビについても品種を保有しています。

エビの養殖は、サーモンなどの他水産事業と比較して産業年齢が若く、技術革新や効率性向上、業界再編の余地が多く残ります。エビ関連事業において、収益性と規模感の両方とも伸びしろは大きいとみており、事業群全体の価値向上に向け、当社総

合力を発揮して参ります。

私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

360° business innovation.

